

1

梅津信幸『「伝わる！」説明術』からの出題です。

問一は「世の中のことがらが何でもうまく分類できるとは限」らない理由を述べる問題です。傍線部の続きを読むと「境界線上にあるもの」とありますので、その説明を探すと 14 行目に「二つ以上の性質を持っているものは、そのどちらか一つに入れようとして、とたんに分類が止まってしまう」という表現が出てきます。この部分を 2 行にまとめます。

問二は「写真を整理すること」が「分類できないもの」と言える理由を答える問題です。25 行目に「一つのことがらが二つ以上の分野にあてはまるとき、『分類してどこか一つの棚に収納する』という方法は使えません」とあります。よってウが正解となります。アは「そのことがらの評価が下がってしまう」という部分が、イは「コピーして入れなければならない」という部分が、エは「自分の大切な経験なので」という部分がふさわしくありません。

問三は『「木を見て、森を見ず」状態』という表現を説明する問題です。傍線部の直前に「これは」という指示語がありますので、その内容を考えます。50 行目に「ある特定の分野に詳しい人が話をするとき、聞いている人には細かすぎて必要ない話題まで語ってしまい、かえって全体像がつかみにくくなる場合がよくあります」とあり、さらに 54 行目に「初心者にはわからない細かな違いをずっとしゃべったり、逆に初心者には欠かせない基本の話題を省いてしまったり」という表現がありますので、これらの部分を 2 行にまとめます。

問四は筆者がどのような状態を「わかる」状態だと考えているかを考え、解答らんになさわしい語句を本文中から抜き出す問題です。34 行目に「私の考えでは何か『わかる』とは、ものごとの相互関係が見えている状態だ」という記述がありますので、「ものごとの相互関係」という 9 字の表現を抜き出します。

問五は「科学」がわかりにくくなる理由を説明する問題です。傍線部の続きを見てみましょう。87 行目に「何かを『取り出す』とは、『全体の中でどういう関係を持ちながらそこにあるか』という、理解に不可欠な情報を捨ててしまうことなのですから。」という理由が述べられています。また、80 行目から始まる段落に「そういうつながりを無視して一部分を切り取ってしまうことで、理解が難しくなることはよくあるのです。この切り取りや分解はまさに、西洋科学の基本的な考え、還元主義そのものです」とあります。以上の内容を 2 行以内でまとめます。

問六は正解のみ記します。

Aはイ、Bはア、Cはウ、Dはエです。

問七は漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書いてください。

問八は本文の内容に合うものを考えます。

アは分類できない理由を、友人と自分の記憶が異なる点としているところが誤りです。

イは 36 行目の段落に述べられている内容と一致します。これが正解です。

ウは分類できない理由を、性質が変化するからとしている点が誤りです。

エはコンピューターや自動車に詳しい人にとって、聞いている人には細かすぎて必要のない話題こそが重要だと述べている点が誤りです。

2

大崎梢『よつつ屋根の下』からの出題です。

問一は父が会社から漁師町にあるアパートを紹介された理由を、母がどのように考えているかを答える問題です。母の発言を探します。「お父さんを追い出した人たちが、新しい職場の人たちに、犬吠埼の近くを頼んだみたい。本人の希望だと言って。」(109～110 行目)の内容を 2 行でまとめます。

問二は成句の問題です。動物に関連する語から出題しました。

正解は一がオ、二がウ、三がエ、四がイ、五がアです。

問三は空欄に入れるのにふさわしい漢字二字の言葉を答える問題です。「～を傾げる」に合うのは「小首」です。

問四は母の発言に僕が困惑した理由を答える問題です。主人公は転校先で友人に恵まれ、充実した生活を送っていますが、母は「いろいろ不自由のある中で、頑張ってくれた」(40 行目)と一方的に決めつけます。イが正解です。アは母の一つ前の発言に対して主人公が困惑した理由です。ウは「母に対して誇れるようなことは何一つしていない」という部分がふさわしくありません。エは本文にない内容です。

問五は、子どもが少しでも親しくなったり、世話になったりした人には必ず贈り物をする母が、その日に限って転校先の同級生の母親に何も贈り物をしない理由を考える問題です。「できれば年が明ける前に戻ってきてほしいの。」(133 行目)から、母が東京から移り

住むつもりがないだけでなく、主人公を東京に連れ戻そうとしていることが分かります。贈り物をしないのは、転校先の人々と付き合っていくつもりがないからだということがわかります。以上を2行以内にまとめます。

問六は「渾身の一球が、難なく打ち返される。」という比喻表現を説明する問題です。「渾身の一球」は「全身の力を出して投げた球」という意味です。ここでは「今日一番の本音」(122行目)を指しています。「難なく」は「たやすく、とくにむずかしいこともなく」という意味です。「打ち返される」は「発言を否定する」ことであると考えられます。

問七は副詞を補充する問題です。

正解はAがエ、Bがイ、Cがウ、Dがオ、Eがアです。

問八は本文の内容に合うものを選ぶ問題です。アが正解です。

アは「でもね、これ以上はいいわ。フミくんが犠牲になることはない。なっってはだめ」(129行目)の内容からこの選択肢を選びます。

イは本文の内容から、妹が主人公と一緒に住みたいと考えているかどうかは分かりません。

ウは本文の内容から、宮本が学級で働きかけてくれたかどうかは分かりません。

エは本文の内容から、父が一刻も早く「ぼく」を東京に帰らせようとしているかどうかは分かりません。